

受付番号	2025-63		
許可番号	大歯医倫 第 111455 号		
研究課題名	歯学部学生における 1 年次から 3 年次までの健康関連 QOL の縦断的变化と関連要因の検討		
研究責任者	河村 佳穂里	申請者	河村 佳穂里
研究終了日	2030 年 3 月 31 日		
所属	口腔衛生学講座	所属	口腔衛生学講座
職名	講師	職名	講師

申請の概要

近年、口腔衛生状態の改善は、う蝕や歯周病の予防にとどまらず、全身の健康や生活の質（Quality of Life : QOL）の維持・向上にも寄与することが報告されている。なかでも歯間部プラークは歯肉炎や歯周病の主要なリスク因子であり、歯ブラシのみでは十分な除去が困難であることから、デンタルフロスなどの補助的清掃用具の使用が推奨されている。しかし、大学生や若年層におけるデンタルフロスの使用率は依然として低く、日本の歯学部学生においても十分に定着しているとは言い難い状況である。

これまで、口腔清掃行動と口腔内状態との関連については多くの研究が行われてきたが、歯学部学生を対象として、口腔清掃行動、口腔関連 QOL、ならびに客観的な口腔衛生状態を複数学年にわたり縦断的に評価した研究は限られている。特に、質問紙による主観的評価と、教育課程において取得される臨床指標を組み合わせで検討した研究は少ない。

本研究は、今後入学する歯学部 1 年生を対象とした前向き縦断研究であり、1 年次および 3 年次の 2 時点で調査を実施する。1 年次には、口腔関連 QOL を Geriatric Oral Health Assessment Index (GOHAI) により評価するとともに、口腔清掃行動や生活習慣に関する質問紙調査を行う。3 年次には、再度 GOHAI および質問紙調査を実施し、加えて口腔清掃実習において通常取得される口腔衛生状態指標である Plaque Control Record (PCR) および Oral Hygiene Index-Simplified (OHI-S) を用いる。

これらのデータを用いて、歯学部学生における口腔清掃行動および口腔関連 QOL の経時的変化を明らかにするとともに、3 年次における口腔衛生状態との関連を検討することを目的とする。本研究により、歯学部学生の初年次から専門教育期に至るまでの口腔保健行動および QOL の実態を把握し、将来的な歯科医療者教育や口腔保健指導の基礎資料を得ることが期待される。